

そら豆

そら豆は 空に向かって 豆がなります。また 腎臓の形は そら豆に似ています。皆様の 気持ちも 上を向きますように...

発刊:
 済生会今治病院
 透析センター
 代表:
 透析センター長
 大本 昌樹
 患者数:
 237名 (7/26 現在)



災害に対する心構え

『平成30年7月豪雨』に際し 罹災お見舞い 申し上げます

6月28日以降の台風7号や、梅雨前線の影響により、県内で人的・建物被害に遭われた方は、死者26名、負傷者11名、住宅被害は全壊・半壊・一部破損が40棟、床上・床下浸水は1655棟にも及んでいます。(7月12日の総務省消防庁の発表)

当院透析患者様の、被害報告は確認されていませんが、島しょ部では、交通遮断・土砂災害・断水・停電などの被害で、大変な思いをされた方もいます。災害に遭われた近県の報道では「病院に閉じ込められた患者のうち、透析患者を優先的に救助している」と、ヘリコプターで人を吊り上げているニュースを目の当たりにし、背筋が凍る思いでした。現在も、二次災害として、主要道路の混乱や交通手段の遮断による物資不足や、その後の暑さから熱中症や熱射病、心因的ストレスなどからの体調不良も軽視できません。今後も酷暑は継続していく予報です。一刻も早く、平穏な日常と安寧を迎えられますことを、心よりお祈り申し上げます。

当院透析センターでは、毎年9月頃に防災訓練を実施していました。今年度は上記の関連もあり看護スタッフが近県へ「人的支援」に向かうため、時期の変更を検討しています。詳細が決定次第お知らせしますので、ご参加・ご協力をお願いします。

●今回の「人的支援」内容

- ★被災者は患者だけでなく、看護職員も被災しているため、出勤困難者による人員不足への援助
- ★職員家族(子どもの学校、保育所)の受け入れ困難による早退や休養の確保
- ★被災した患者に対しての、入退院支援や日常生活援助についての、質の高い看護援助
- ★災害の影響の長期化を想定

近県で災害が発生した場合、今回のような援助支援要請が発生する場合があります。また、緊急時は他院の透析患者様の受け入れを行う場合もあり、透析時間の変更・短縮などによるご負担を、当院透析患者様に担っていただく可能性もあります。その逆の可能性もあるため、皆様のご理解とご協力をお願いします。



腎臓リハビリテーション

透析中に運動を行うリハビリがあります。運動と言っても、透析患者様は血液回路に接続された状態にありますので、激しい運動やベッドサイドから離れることは出来ません。

当院では、自転車のペダル運動を採用しています。装置の新規導入と、リハビリ科の協力による改善により、スムーズな運動の実施に至っています。前半2時間以内に30〜60分リハビリを行うと、心臓の働きがよくなる、透析療法の効率が上がる、筋力がついて日常の活動性が高くなるなどの報告があります。患者様の身体的状況にもよりますので、主治医とご相談下さい。

すべての患者様に適応とはなりません。ご興味のある方はスタッフまでお尋ねください。



新人紹介

看護師 村上 美穂



5月から異動してきました。透析は初めての事ばかりで、ご迷惑をおかけすると思いますが、一生懸命頑張りますのでお願いします。

穿刺針から考える

「あなた」と「私」の安全対策

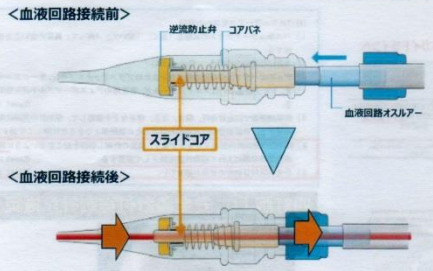
透析で毎回使用される針。患者様はあまり見た事はないかもしれませんが、最近新しい穿刺針を使用していることをご存知でしょうか？

針の構造は内筒と外筒に分かれています。内筒の金属針で皮膚から血管に突き進み、血管に到達したら内筒を引き抜き、柔らかい素材の外筒が留置されます。留置した外筒と、機械に準備されている回路とを接続し、透析が開始できる手順になっています。今までは、ペアンと呼ばれるハサミのような形の器具で、外筒の針先以外の柔らかい部分を挟み込んで、血流遮断止血しなければ、血液で汚染されるため、回路と機械の接続が困難でした。

新しい穿刺針は**止血弁（逆流防止弁）**という機能があり、外筒を抜いた時点でロックが掛かり、血液はあふれない構造になっています。

逆流防止弁システム

血液回路の脱着操作で、スライドコアが逆流防止弁を開閉します。



また、**セーフティ機構（針刺し事故防止機能）**として、内筒を抜いた時点で“カチツ”と音がして、針先をプラスチックで保護する機能があります。これは医療従事者が、誤って自分を刺してしまう事故の予防につながっています。



安全な留置針の取り扱い

- **リキャップ**は禁止する。
- **シャント**穿刺場所の近くに**廃棄容器**を設置する。もしくは、シャントへの血管確保後に穿刺針の内筒針をすぐに捨てられる**携行用廃棄容器**を利用する。
- **安全装置付きの血液透析用シャント**穿刺針を利用する。

職業感染制御研究会 第5版 P54
職業感染防止のための安全対策製品カタログ



止血弁をカテーテルハブに内蔵

- 多数回弁の採用により圧迫止血や鉗子を用いたクランプ操作が不要です。
- 透析中の一時離脱も可能です。



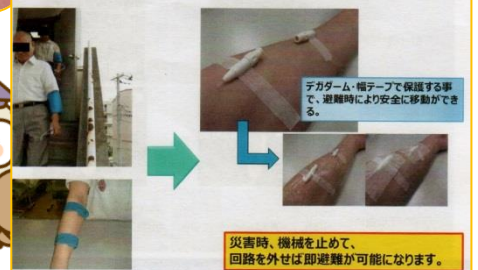
回路との接続



この、止血弁の機能は、災害などの緊急時など、素早い対応が求められる場合に大変、役に立つと思われると思います。以前の穿刺針では、緊急離脱時にペアンで血流を遮断し、保護栓でキャップを閉める事で初めて移動できました。



血液回路との離脱後



この止血弁の機能を利用すれば、緊急離脱時は、回路から外すだけで、避難可能となります。止血弁のみで外界との接触は、遮断される予定です。けれども、緊急時は何が起るか、わかりませんので、当院では緊急離脱時、キャップの装着までを考慮したいと検討しています。その緊急離脱手順などは、今後開催予定の透析センターの避難訓練において、再検討を重ねていきたいと思えます。多くの皆様の「緊急避難訓練」へのご参加をお願い致します。

